

報告品目・新キット製品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
1	213 249	内用薬	サムスカOD錠 7.5mg	7.5mg1錠	1,298.50円	大塚製薬	トルバプタン	<ul style="list-style-type: none"> ・ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ・ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ・腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・心不全における体液貯留の場合 通常、成人にはトルバプタンとして15mgを1日1回経口投与する。 ・肝硬変における体液貯留の場合 通常、成人にはトルバプタンとして7.5mgを1日1回経口投与する。 ・常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制の場合 通常、成人にはトルバプタンとして1日60mgを2回（朝45mg、夕方15mg）に分けて経口投与を開始する。1日60mgの用量で1週間以上投与し、忍容性がある場合には、1日90mg（朝60mg、夕方30mg）、1日120mg（朝90mg、夕方30mg）と1週間以上の間隔を空けて段階的に増量する。なお、忍容性に応じて適宜増減するが、最高用量は1日120mgまでとする。 	再審査期間中の 剤形追加
			サムスカOD錠 15mg	15mg1錠	1,975.40円					
			サムスカOD錠 30mg	30mg1錠	2,999.90円					
2	396	内用薬	ザファテック錠 25mg	25mg1錠	278.40円	武田薬品 工業	トレラグリブ チンコハク酸 塩	2型糖尿病	通常、成人にはトレラグリブチンとして100mgを1週間に1回経口投与する。	再審査期間中の 規格追加
3	429	内用薬	ジカディア錠 150mg	150mg1錠	6,413.60円	ノバル ティス ファーマ	セリチニブ	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	通常、成人にはセリチニブとして450mgを1日1回、食後に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	再審査期間中の 剤形追加
4	243	注射薬	テリバラチド皮下注 28.2μgオートイン ジェクター	28.2μg1キッ ト	6,018円	旭化成 ファーマ	テリバラチド 酢酸塩	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	通常、成人には、テリバラチドとして28.2μgを1日1回、週に2回皮下注射する。 なお、本剤の投与は24か月間までとすること。	新用量、新 キット製品
5	243	注射薬	テリバラチドBS皮 下注キット600μg 「モチダ」	600μg1キッ ト	26,491円	持田製薬	テリバラチド （遺伝子組換 え）[テリバ ラチド後続 1]	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	通常、成人には1日1回テリバラチド（遺伝子組換え）[テリバラチド後続1]として20μgを皮下に注射する。 なお、本剤の投与は24か月間までとすること。	ハイオ後続品
6	399	注射薬	エタネルセプトBS 皮下注10mgシリ ンジ1.0mL「日医 工」	10mg1mL1筒	3,509円	共和薬品 工業	エタネルセプ ト（遺伝子組 換え）[エタ ネルセプト後 続2]	既存治療で効果不十分な下記疾患 関節リウマチ（関節の構造的損傷 の防止を含む） 多関節に活動性を有する若年性特 発性関節炎	（関節リウマチ） 本剤を、通常、成人にはエタネルセプト（遺伝子組換え）[エタネルセプト後続2]として10～25mgを1日1回、週に2回、又は25～50mgを1日1回、週に1回、皮下注射する。 （多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎） 本剤を、通常、小児にはエタネルセプト（遺伝子組換え）[エタネルセプト後続2]として0.2～0.4mg/kgを1日1回、週に2回、皮下注射する。（小児の1回投与量は成人の標準用量（1回25mg）を上限とすること）	ハイオ後続品
			エタネルセプトBS 皮下注25mgシリ ンジ0.5mL「日医 工」	25mg0.5mL1 筒	8,675円					
			エタネルセプトBS 皮下注50mgシリ ンジ1.0mL「日医 工」	50mg1mL1筒	17,109円					
			エタネルセプトBS 皮下注50mgベン 1.0mL「日医工」	50mg1mL1 キット	17,246円					
既存治療で効果不十分な関節リウマ チ（関節の構造的損傷の防止を含 む）										（関節リウマチ） 本剤を、通常、成人にはエタネルセプト（遺伝子組換え）[エタネルセプト後続2]として10～25mgを1日1回、週に2回、又は25～50mgを1日1回、週に1回、皮下注射する。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考	
7	399	注射薬	ダルベポエチン アルファBS注5μgシリンジ「JCR」	5μg0.5mL 1筒	826円	J C R ファーマ	ダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1]	腎性貧血	<p><血液透析患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、週1回0.33μg/kg (最高20μg) を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30~120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、週1回5~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10~120μgを静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p> <p><腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回0.5μg/kg (最高30μg) を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回10~60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続1] として、2週に1回5~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p>	バイオ後続品	
			ダルベポエチン アルファBS注10μgシリンジ「JCR」	10μg0.5mL 1筒	1,459円						
			ダルベポエチン アルファBS注15μgシリンジ「JCR」	15μg0.5mL 1筒	2,032円						
			ダルベポエチン アルファBS注20μgシリンジ「JCR」	20μg0.5mL 1筒	2,573円						
			ダルベポエチン アルファBS注30μgシリンジ「JCR」	30μg0.5mL 1筒	3,586円						
			ダルベポエチン アルファBS注40μgシリンジ「JCR」	40μg0.5mL 1筒	4,539円						
			ダルベポエチン アルファBS注60μgシリンジ「JCR」	60μg0.5mL 1筒	6,327円						
			ダルベポエチン アルファBS注120μgシリンジ「JCR」	120μg0.5mL 1筒	11,162円						
			ダルベポエチン アルファBS注180μgシリンジ「JCR」	180μg0.5mL 1筒	15,560円						

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
8	399	注射薬	ダルベポエチン アルファBS注5μgシリンジ「三和」	5μg0.5mL 1筒	826円	三和化学研究所	ダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2]	腎性貧血	<p><血液透析患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、週1回0.33μg/kg (最高20μg) を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30~120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、週1回5~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10~120μgを静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p> <p><腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回0.5μg/kg (最高30μg) を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回10~60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続2] として、2週に1回5~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p>	バイオ後続品
			ダルベポエチン アルファBS注10μgシリンジ「三和」	10μg0.5mL 1筒	1,459円					
			ダルベポエチン アルファBS注15μgシリンジ「三和」	15μg0.5mL 1筒	2,032円					
			ダルベポエチン アルファBS注20μgシリンジ「三和」	20μg0.5mL 1筒	2,573円					
			ダルベポエチン アルファBS注30μgシリンジ「三和」	30μg0.5mL 1筒	3,586円					
			ダルベポエチン アルファBS注40μgシリンジ「三和」	40μg0.5mL 1筒	4,539円					
			ダルベポエチン アルファBS注60μgシリンジ「三和」	60μg0.5mL 1筒	6,327円					
			ダルベポエチン アルファBS注120μgシリンジ「三和」	120μg0.5mL 1筒	11,162円					
			ダルベポエチン アルファBS注180μgシリンジ「三和」	180μg0.5mL 1筒	15,560円					

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
9	399	注射薬	ダルベポエチン アルファBS注射液5μgシリンジ「MYL」	5μg0.5mL 1筒	826円	マイラン EPD	ダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベ ポエチン アル ファ後続 3]	腎性貧血	<p><血液透析患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、週1回0.33μg/kg (最高20μg) を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、週1回15~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30~120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、週1回5~60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10~120μgを静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p> <p><腹腔透析患者及び保存期慢性腎臓病患者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回0.5μg/kg (最高30μg) を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回10~60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回30~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ (遺伝子組換え) [ダルベポエチン アルファ後続3] として、2週に1回5~120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10~180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。</p>	ハイオ後続品
			ダルベポエチン アルファBS注射液10μgシリンジ「MYL」	10μg0.5mL 1筒	1,459円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液15μgシリンジ「MYL」	15μg0.5mL 1筒	2,032円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液20μgシリンジ「MYL」	20μg0.5mL 1筒	2,573円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液30μgシリンジ「MYL」	30μg0.5mL 1筒	3,586円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液40μgシリンジ「MYL」	40μg0.5mL 1筒	4,539円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液60μgシリンジ「MYL」	60μg0.5mL 1筒	6,327円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液120μgシリンジ「MYL」	120μg0.5mL 1筒	11,162円					
			ダルベポエチン アルファBS注射液180μgシリンジ「MYL」	180μg0.5mL 1筒	15,560円					
10	429	注射薬	テセントリク点滴静注840mg	840mg14mL 1瓶	448,853円	中外製薬	アテソリスマブ (遺伝子組換え)	PD-L1陽性のホルモン受容体陰性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌	パクリタキセル (アルブミン懸濁型) との併用において、通常、成人にはアテソリスマブ (遺伝子組換え) として1回840mgを60分かけて2週間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間で短縮できる。	新効能、新用量、再審査期間中の規格追加
11	429	注射薬	ベバシズマブBS点滴静注100mg「ファイザー」	100mg4mL1 瓶	26,492円	ファイザー	ベバシズマブ (遺伝子組換え) [ベバシズマブ後続1]	治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはベバシズマブ (遺伝子組換え) [ベバシズマブ後続1] として1回5mg/kg (体重) 又は10mg/kg (体重) を点滴静脈内注射する。投与間隔は2週間以上とする。	ハイオ後続品
			ベバシズマブBS点滴静注400mg「ファイザー」	400mg16mL 1瓶	100,885円					

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
12	429	注射薬	ペバシズマブBS点滴静注100mg「第一三共」	100mg4mL1瓶	26,492円	第一三共	ペバシズマブ(遺伝子組換え) [ペバシズマブ後続2]	治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはペバシズマブ(遺伝子組換え) [ペバシズマブ後続2] として1回5mg/kg(体重)又は10mg/kg(体重)を点滴静脈内注射する。投与間隔は2週間以上とする。	バイオ後続品
			ペバシズマブBS点滴静注400mg「第一三共」	400mg16mL1瓶	100,885円					
13	429	注射薬	リツキシマブBS点滴静注100mg「ファイザー」	100mg10mL1瓶	21,247円	ファイザー	リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2]	○CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫 ○免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性リンパ増殖性疾患 ○多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎	1. (CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫に用いる場合) 通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2] として1回量375mg/m ² を1週間間隔で点滴静注する。最大投与回数は8回とする。他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、併用する抗悪性腫瘍剤の投与間隔に合わせて、1サイクルあたり1回投与する。 維持療法に用いる場合は、通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2] として1回量375mg/m ² を点滴静注する。投与間隔は8週間を目安とし、最大投与回数は12回とする。 (免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性リンパ増殖性疾患に用いる場合) 通常、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2] として1回量375mg/m ² を1週間間隔で点滴静注する。最大投与回数は8回とする。 (多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎に用いる場合) 通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2] として1回量375mg/m ² を1週間間隔で4回点滴静注する。 2. 本剤は用時生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液にて10倍に希釈調製し使用する。	バイオ後続品
			リツキシマブBS点滴静注500mg「ファイザー」	500mg50mL1瓶	104,404円					
14	634	注射薬	アドベイト静注用キット250	250国際単位1キット(溶解液付)	22,431円	シャイアー・ジャパン	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に対し、血漿中の血液凝固第Ⅷ因子を補い、その出血傾向を抑制する。	本剤を溶解液5mLで溶解し、緩徐に静脈内注射又は点滴注入する。なお、10mL/分を超えない速度で注入すること。用量は、通常、1回体重1kg当たり10～30国際単位を投与するが、症状に応じて適宜増減する。	新キット製品
			アドベイト静注用キット500	500国際単位1キット(溶解液付)	41,553円					
			アドベイト静注用キット1000	1,000国際単位1キット(溶解液付)	76,977円					
			アドベイト静注用キット1500	1,500国際単位1キット(溶解液付)	110,405円					
			アドベイト静注用キット2000	2,000国際単位1キット(溶解液付)	142,600円					
			アドベイト静注用キット3000	3,000国際単位1キット(溶解液付)	204,526円					
15	634	注射薬	イデルビオン静注用3500	3,500国際単位1瓶(溶解液付)	1,190,087円	CSLベリング	アルブトレブノナコグアルファ(遺伝子組換え)	血液凝固第Ⅸ因子欠乏患者における出血傾向の抑制	本剤を添付の溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内に注射する。 通常、1回体重1kg当たり50国際単位を投与するが、患者の状態に応じて適宜増減する。 定期的な投与する場合、通常、体重1kg当たり35～50国際単位を7日に1回投与する。また、患者の状態に応じて、体重1kg当たり75国際単位の14日に1回投与に変更することもできる。なお、いずれの投与間隔においても投与量は適宜調節するが、1回体重1kg当たり75国際単位を超えないこと。	再審査期間中の規格追加
16	131	外用薬	アレジオンLX点眼液0.1%	0.1%1mL	712.60円	参天製薬	エピナスチン塩酸塩	アレルギー性結膜炎	通常、1回1滴、1日2回(朝、夕)点眼する。	新用量
17	821	外用薬	ラフェンタテープ1.38mg	1.38mg1枚	1222.80円	日本臓器製薬	フェンタニル	非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛(ただし、他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する場合には限る)中等度から高度の疼痛を伴う各種がん	本剤は、オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。 通常、成人に対し胸部、腹部、上腕部、大腿部等に貼付し、3日毎(約72時間)に貼り替えて使用する。初回貼付用量は本剤投与前に使用していたオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して、1.38mg(12.5µg/hr)、2.75mg(25µg/hr)、5.5mg(50µg/hr)、8.25mg(75µg/hr)のいずれかの用量を選択する。 その後の貼付用量は患者の症状や状態により適宜増減する。	新剤形
			ラフェンタテープ2.75mg	2.75mg1枚	2260.80円					
			ラフェンタテープ5.5mg	5.5mg1枚	4201.90円					
			ラフェンタテープ8.25mg	8.25mg1枚	5855.10円					
			ラフェンタテープ11mg	11mg1枚	7883.80円					

- ・内容についての詳細な情報又は正確な情報は、添付文書等をご参照下さい。
- ・薬価に関する情報は「官報」でもご確認下さい。
- ・承認に関する情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の新薬の承認に関する情報もご参照下さい。
- ・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。
- ・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。